美しいまちづくりのために

かなざわ景観だより

第3号

平成八年（一九九六）六月発行
■企画編集／景観だより編集委員会
■発行／金沢市広坂一丁目一―一
金沢市都市政策部まちなみ対策課
（〇七六二）二〇―三三六四

LANDSCAPE NEWS OF KANAZAWA

こまちなみに出会う

―昔も今も変わらぬ息づかい…―

金沢には、貴重な歴史的建築物が今もなお、数多く残っており、個性的なまちなみに歴史と文化の彩りを添えています。「こまちなみ」とは歴史的風情を残す、そんなちょっとした良いまちなみのことを言います。また、「こまちなみ」は単にまちなみとして美しいだけではなく、そこに住む人々の生き生きとした生活の匂いの感じられるまちなみでもあります。

水溜（みずためまち）町

金沢のまちなみの大きな特徴は、前田利家入城来四〇〇年余、細街路や土地利用など、城下町としての町の骨格を引き継ぎながら、江戸、明治、大正、昭和と戦災や震災によって大きなときがなく、移り変わってきたことです。町のあちこちにそれぞれの時代の遺構が残り、そんな面影をたずねる散策ができるのも金沢の魅力のひとつになっています。

水溜町は、犀川大通り沿い、新竪町商店街入口ならびの天狗中田本店左脇から犀星文学碑への小路沿いに閑静なたたずまいが続き、武家屋敷の表構えの特徴である豊かな前庭の緑がまちなみに彩りと潤いを添えています。

もともと金沢城を囲むように配された、藩主直臣の「平士」の居住地、代表的な「こまちなみ」のひとつです。また、周辺の池田町、十三間町、杉浦町などとともに、その成り立ちや歴史を今に伝える旧町名を残す数少ないまちでもあります。

土塀が随所に見受けられるのはもちろんのこと、かつての家臣の居所や物置などを併設する長屋門跡も一部に残されています。さらに、瓦葺きの大屋根をもつ武士系の歴史的建築物がいくつか見られ、その屋根妻壁面の細かく交差する束、貫で構成される白漆喰壁、いわゆる「アズマダテ」の意匠がまた土塀や前庭とあいまってまちなみを印象深いものとしています。

土塀を残したまちの駐車場、土塀跡の石垣を利用した植栽、また、新しい住宅においても外壁の素材・色彩や植栽などに関の配慮が見られ、そこに住む人々の誇りと町を歩く人への心遣いが感じられます。少なくなりつつあるこのような「こまちなみ」を、市民みんなの宝として大切にしていきたいものです。

まちのれきし

犀川大橋から桜橋の左岸に位置。池田町立丁から東へ竪町、南西に新竪町、北西は杉浦町へと続く三角形の町地で、町名は水溜と呼ばれる堀があった河原で、埋め立てによって宅地となった。水溜堀はこのときの埋め残りといわれる。延宝町絵図には現在の水溜町から新竪町の裏、さらに杉浦町にかけて数千間の大きさの溜堀が描かれているほか、元禄六年（一六九三）の侍帳にも「竪町水車近所水溜」「新竪町四番水溜」の記載が見られる。

明治四年（一八七一）隣接していた水溜御歩町を合併。金沢市中心部の商業化にともない、ドーナツ化現象の影響から住宅数が激減。平成八年度の世帯数は37世帯、人口は90名となっている。

（参考文献『石川県の地名』平凡社）

まちのひと

新竪町公民館館長
平田寛久
金沢市水溜町31

古い書物によると、藩政時代、このあたりには下級武士の屋敷があったそうです。私の小さい頃には、大佐や中佐という軍人さんの住まいが何件かあったと記憶しています。

水溜町は、金沢らしい昔ながらの細い道が残っており、車の交通量の激しい犀川大通りが目の前にあるにもかかわらず、路地に入ると、比較的静かで、ぶらり散策するにはとてもいいところです。

例えば、県立美術館などがある本多の森から美術の小径を通ってふるさと偉人館、里見町から竪町を通り、そして水溜町から犀星のみちと続くルートは、金沢らしい情緒が感じられる散歩道といえるのではないでしょうか。

平和で静かなたたずまいが自慢ですが、こどもスポーツ大会やその他のチームが成立しないほど住人の数が少なくなっています。それでもこのまちなみだけはずっと残していきたいものです。

景観美カタログ

第8回いしかわ広告景観賞

▲文具のかみや（中橋町）
ほほえみを誘い、好感がもてます。わかりやすく看板の原点とも思えます。

▲(株)エクサ（本町）
色合い、文字、ストライプの処理が高度で、デザインに落ち着きがあります。

▲(株)セントメリー（駅西第二土地区画）
建物に対するアールの取り方、ラインのバランスの良さが評価できる作品です。

▲ＮＴＴ北陸移動通信網(株)（大手町）
横文字を縦にし、ホワイトベースがきれいに処理されています。

◀(株)北陸銀行（駅西本町）
大きなビルに控えめな大きさの文字が良くマッチしています。

▶石川県済生会金沢病院（赤土町）
安定したデザインで、細やかな気配りがなされており、きれいなレイアウトです。

▲(株)キャッスルイン金沢（此花町）
グラフィックとモダンアートでボリューム感を出しています。

▲金沢信用金庫金石支店（金石西）
ポイントの赤にインパクトがあります。

第1回金沢まちなみ広告賞

▲レストランサンマルク有松店（有松）
倉をイメージした２棟の建物の白と茶系の対比と浮出し文字のシルエットが上品で心地よい雰囲気です。

▲(株)中川忠商店工場（示野町）
窓を上手に生かし、ロゴマークの配置などに景観への心配りが感じられます。

◀ジャパンエナジーサービススステーション（市内17店舗）
ＣＩの基調色である緑色を金沢の地域性に合わせうぐいす色に変更しました。

◀山茂利旅館（東山）
周辺の茶屋の行灯に合わせ、看板の大きさ、幅、位置に配慮がされています。

第18回金沢都市美文化賞

▲金沢市立泉野図書館（泉野町）
落ち着いた色調と屋根が歴史的な雰囲気を醸しだし、幾何学的な形を組み合わせた外壁が楽しいデザインです。

▲寿屋（尾張町）
藩政時代の町家を再現しており、伝統的建造物保存の成功例として評価できます。

▲寺町鐘声園（寺町）
寺院風に山門を配し、周辺の伝統的景観に配慮しています。

▲宮田歯科室（疋田）
起（むくり）のついた切妻屋根と、色調は統一しながら濃淡のあるタイルの外壁が目を引きます。

▲駅西中央ビル（駅西本町）
石貼りの円柱、タイル貼りの外壁とガラスカーテンウォールの組み合わせがユニークです。

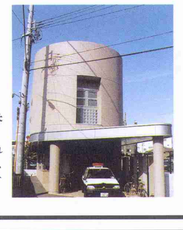
▲アバンティ東山（東山）
軒高、格子、色彩などが周辺のひがし茶屋街とうまく調和しています。

▲宮腰緑地（金石西）
枯山水、芝生、松などの植栽、東屋、和風のトイレなどがセンス良く配されています。

◀直江邸（本多町）
母屋と車庫のデザインの統一やアプローチの植栽など美観への配慮が施されています。

▲ヤギコーポレーション物流センター（湊）
ガラスカーテンウォールとアプローチ上の三角屋根が明るさと楽しさを感じさせます。

気配り賞



▶武蔵ケ辻交番（安江町）
やさしさが感じられる外観デザインで、新しい交番のイメージが好評です。

▲大乗寺坂（出羽町）
本多の森の緑陰に調和しており、段差の小さい階段とスロープを設け、利用者への配慮がなされています。

わたしのかなざわ

近頃、市街地に駐車場があるという意見をよく耳にします。このことは、金沢の景観問題と関係がないとは言えないと思います。連続した街並みが破壊されるだけでなく、車による騒音や歩きづらさから、景観の美しさを感じる余裕すらなくなってしまうように思います。景観を構成する要素は、見た目の美しさに加え、見るための心のゆとり、そして音や空気など五感を通して入るいろいろな物があるのではないでしょうか。

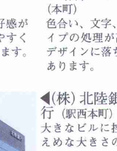
少し大きな問題となりますが、交通問題を景観政策の中で重要課題として位置づける必要があると思います。金沢市では、パークアンドバスライドやリバーシブルレーンなど意欲的に取り組まれていますが、それは法治対策と言ったら経済優先の考え方によるものと思います。

金沢のような都市構造において、物理的対応には限界があると思いますので、景観保全に対する意識の高まりを、車社会からの脱却への意識に結びつけてゆくことなどがヒントになるのではないかと思います。

（金沢在住・二〇代・男性・学生）

私達が幼い頃に見たり聞いたり、金沢の街並みがどんどん変わっています。社会から「らしさ」、つまり男らしさ、女らしさもなることながら、「金沢らしさ」が消えていっているようです。古い物をただ保存しようということではなく、機は損なわずに、歴史のある金沢の街並みを、「らしく」都市計画することは出来ないものでしょうか。

（金沢在住・六〇代・男性）



戦後50年は、経済成長一本で日本は突き進んできました。近年、公共建築物等には立派なものが見られますが、やはり一般の人が生活する街並みや文化の国らしく形成されることが大切だと思います。良い街並みはそこに住む人の表情でもあります。

（金沢在住・六〇代・男性）

戦災から免れた旧い街並みが、どんな風に変化していくのかと思う半面、旧い街並みも、残しておきたいと思っております。高層ビルが建ち並ぶ金沢よりも、名勝兼六園にふさわしい城下町金沢を活かしたお街づくりに期待いたします。

（金沢在住・七〇代・女性）

金沢は古い建物や、昔ながらの風情が残っているところが多くあり、街並みもとても落ちついて良いと思います。しかし最近は観光地としての整備もされ、景観にもすいぶん配慮がされているようですが、あまりにもきれいすぎて、つくられた部分もあるように思われます。生まれ育ったこの「金沢」のイメージを壊さないようにして欲しい。

大好きな金沢なので、その景観は大切に守って欲しいと思います。

（金沢在住・二〇代・女性・会社員）

「金沢」と言うネームバリューはかなり高く、一度は訪れたい街として必ずと位置ランキングされる。しかし実際に訪れると、思い描くイメージとはかなりギャップを感じるらしい。

金沢も近代化がどんどん進み、全国のどこにでもある中核都市になろうとしている。高層の建築物や幅員の広い道路は「安全で住みよい街を創り出すが、はたしてそれが金沢の進む道であるのか？

渋滞が多く、道が狭く曲がりくねり、少しくらい危険や不便であっても、個性的な都市形態や景観が残るのであれば、市民全員が我慢して「小さくても個性が光り輝く世界都市金沢」を目指して行けば良いと思う。

（金沢在住・二〇代・男性・会社員）

編集後記

今回号は、屋外広告物についての特集をさせていただきました。

「自然は、神の宴」により造られ、都市は、人間が造った」また、「都市景観は、人の手による芸術品である」と言われます。

屋外広告物は、都市に活気とにぎわいを与えています。広告業は、都市型産業と称される所以です。

一方、屋外広告物が街頭に大量無秩序に氾濫し、都市景観を損ねていると言われています。

金沢市は、今年４月１日から中核市移行に伴い、石川県屋外広告物に関する事務の委譲を受け、金沢市屋外広告物条例を施行いたしました。

この条例を単に屋外広告物の設置の制限、規制の側面だけでとらえるのでなく、都市景観を演出、創出するために欠かせないことのできない重要な要素として、円滑な施行を目指していきたいと考えています。

金沢市は、優良な屋外広告物に対する「まちなみ広告賞」表彰や、広告物のデザイン補助、老朽化した屋外広告物の撤去費補助など屋外広告物の向上のための誘導施策を行っています。

市民の皆様には、より良い都市景観の形成の観点から、屋外広告物の役割と活用の仕方についてご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

おしらせ

●今年も「魅力ある金沢の都市景観写真コンテスト」を実施します。（募集期間・6月1日～7月末）

豊かな緑に彩られる自然や歴史を感じさせるまちなみ、にぎわいと活気にあふれた街の表情などを、魅力にあふれる金沢の街の景観をレンズを通して見つけてください。きっとあなたの目で新たな金沢が見つかることと思います。

募集要項等詳しくはまちなみ対策課までお問い合せください。

●10月1日は「都市景観の日」。今年はこの前後に広く市民の皆さんが都市の景観について考え、理解を深めていただくことのできる催しを開催する予定です。楽しいイベントやシンポジウムなど、いろいろな企画を考えていますので、ぜひご期待下さい。

●まちなみ対策課では、景観についての情報の率直な意見や、感想をお待ちしております。普段感じているちょっとした思い、ふと見つけた素敵なまちなみなどお気軽にお寄せください。

トータル・エコロジー・バランスに優れた21世紀の紙「ツリー・フリー・ペーパー」（非木材紙）を使用しています。